

## 地方創生加速化交付金実施計画

### ①〔地方公共団体名〕

都道府県名	高知県
市町村	四万十市
都道府県・市町村コード(5桁)	39210

### ②〔申請額〕 (単独事業分)

No.	交付対象事業の名称	申請額(千円)
1	地域商社「(株)西土佐ふるさと市」を核とした地域創造事業	46,475千円
2	産学官連携スジアオノリ自然栽培(養殖)推進事業	17,229千円
3		
4		
5		
小計		63,704千円

### (広域連携事業分)

No.	交付対象事業の名称	申請額(千円)
1	四万十・足摺エリア版DMOによる広域観光推進連携事業	16,296千円
2		
3		
4		
5		
小計		16,296千円

総計		80,000千円
----	--	----------

# 地方創生加速化交付金実施計画

## ～広域連携事業版～

### ①交付対象事業の名称

四万十・足摺エリア版DMOによる広域観光推進連携事業
----------------------------

### ②代表地方公共団体名

都道府県名	高知県
市町村名	
都道府県・市町村コード(5桁)	39000

### ③連携地方公共団体一覧

No.	都道府県名	市町村名	都道府県・市町村コード(5桁)	申請額
1	高知県		39000	25,000千円
2	高知県	宿毛市	39208	9,485千円
3	高知県	土佐清水市	39209	9,762千円
4	高知県	四万十市	39210	16,296千円
5	高知県	大月町	39424	2,476千円
6	高知県	三原村	39427	1,248千円
7	高知県	黒潮町	39428	4,733千円
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
申請額総計				69,000千円

# 地域商社「(株)西土佐ふるさと市」を核とした地域創造事業

事業費 46,475千円

## 1. 地域の背景・概要

- 四万十市は、中央を日本最後の清流ともいわれる四万十川が還流し、人々の生活に恵みを与えています。また、「海・川・山」すべて揃った優れた自然環境のもと豊富な一次産品を有するとともに着地型観光の定着、サーフィン、カヌーなどが一年中でき、都市圏住民の憧れの地となるなど元気な地域です。
- 四万十市は、平成17年4月10日に中村市と西土佐村が合併して誕生した、高知県西南部に位置する人口約35,000人のまちです。西土佐地域は、本市の北部に位置し、地域の91%を森林が占め、人口約3,000人の地域です。平成25年8月12日には日本最高気温41℃を記録し、日本一暑いまちとして全国的にも注目されています。
- こうした中、平成13年に生産者や事業者が連携した任意組織として設立された「西土佐ふるさと市組合」は、直販所「ふるさと市」を拠点に、地域野菜や加工品の直販活動を行い、近年は、約300人の会員（生産者等）による安心・安全な作物づくりや地域施設への食材供給のコーディネート、さらには市外、県外への外販活動による販路拡大にも積極的に取り組み、地域の所得向上に向けた中核的役割を担い、地域の生産者や事業者等からの信頼も厚い団体となっています。

## 2. 取組の概要

今回の事業は、市の北部の玄関口となる西土佐地域に、本市初の道の駅「よって西土佐」がオープン（3月31日プレオープン、4月10日本オープン）し、その運営主体として、任意組織の「西土佐ふるさと市組合」がより機能的・能動的な組織として「(株)西土佐ふるさと市」へ改編したことを契機に、これまでの取り組みを発展させ、「地域商社」としての機能を担い、地域産品の販売を戦略的にコーディネートするプラットフォームとして、地域間連携、官民協働、政策間連携のもと徹底した顧客目線に立ち、幅広い地域産品の安定的な販路開拓・拡大に取り組み、地域経済全体の活性化を目指すものです。

### 1. 地域コーディネート機能

地域拠点として整備する道の駅「よって西土佐」の施設機能を活かし、地域の人・モノ・コトの発掘、集落やグループ個人で取り組む小さなビジネスの支援、生産者支援や協力・連携づくり、地のものを活かした新商品の商品化・既存商品の磨き上げ、ブランド化など**地域商社としての地域コーディネート**を進めます。

また、道の駅が持つコミュニティ機能を活かし、地域住民の寄り合い・居場所・学習の場づくりにも取り組み、**地域福祉の向上**を図ります。

### 2. 広域連携・政策間連携の拠点機能

**国道381号沿いの県境も跨いだ道の駅間連携**を基軸にした周辺市町村や**定住自立圏を構成する幡多の6カ市町村との連携**、±41℃の日本最高、最低気温を記録した四万十市と北海道旭川市「道の駅あさひかわ」との連携などの広域連携の取り組みを進めます。

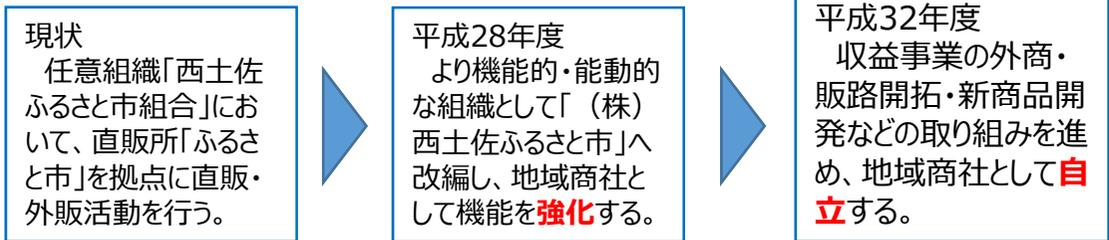
また、**一般社団法人幡多広域観光協議会（日本版DMO）と連携**し着地型観光の提案、おもてなし意識の醸成とインバウンド対応、カヌー等を目的に来る観光客への窓口対応など、点から線、面になるように広域的な**観光拠点機能を強化**し取り組みを進めます

### 3. 外商・情報発信機能

**多くの生産者等の営業機能を一手に担い、外商・販路開拓を進める**とともに、マーケティングや消費者の声をフィードバックして、地域資源の活用や地域課題の解決に向けて、小さなビジネスの発掘・支援、生産指導から6次産業化、ブランド創造、外商までの**入口から出口までを戦略的にコーディネート、プロデュース**します。

さらに、外商機能強化のために**松山市ヘサテライトショップの開業**や**クラウドファンディング**を活用したファンづくりなども行います。

## 3. 今後の展開・自立に向けた取組



## 4. 重要業績評価指標 (KPI) ※現状は、H26年度のふるさと市組合

指標名	現状	H28	H32
商品開発数	0アイテム	5アイテム	15アイテム
道の駅「よって西土佐」入込客数	7.2万人	10万人	13万人
(株)西土佐ふるさと市売上額	43,904千円	80,700千円	97,500千円
(株)西土佐ふるさと市雇用者数	5人	20人	30人

3. 外商・情報発信機能

地産外商活動

- 松山市での外商活動（年96回）
- 道の駅よって西土佐サテライトショップ開設
- 首都圏アンテナショップ等への外商活動
- 友好都市間との外商活動
- 新たな販路先の開拓

地域の魅力発信

- 地域の魅力・情報発信
- 地域各組織との連携したイベント企画
- 観光等関連組織との連携強化

道の駅よって西土佐ファンの育成

- クラウドファンディング創設・活用
- 道の駅よって西土佐ファンの育成
- 移住促進・移住者支援

四万十市  
・道の駅の整備  
・総合戦略の推進

官民連携・協働

地域商社  
(株) 西土佐ふるさと市  
戦略的コーディネイト・プロデュース

マーケティング  
フィードバック

コーディネイト  
プロデュース

2. 広域連携・政策間連携の拠点機能

道の駅間等との連携

- R381沿い（愛媛県・高知県）の道の駅との連携体制強化
- 定住自立圏を構成する幡多地域の道の駅との連携体制強化（地域全体を盛り上げる為の仕組みづくり）
- -41℃旭川市（道の駅あさひかわ）との人的・物産交流

幡多広域観光協議会（日本版DMO）と連携した広域観光の推進

- 地域の魅力ガイド
- インバウンドへの対応
- 着地型観光の提案
- おもてなしスキルアップ研修の実施によるおもてなしの心の醸成

1. 地域コーディネイト機能

生産者・生活弱者支援

- 農産物等の庭先集荷活動
- 高齢者見守り（声かけ）活動
- 保健・医療・福祉との連携の強化

寄り合い・居場所・学習の場づくり

- 道の駅に気軽に立ち寄れる空間づくり
- コミュニティスペースの活用促進
- 図書館・生涯学習との連携の強化

地域商品の開発支援・販路拡大

- 地域加工品製造者のすそ野の拡大
- 地域産品の販路拡大及び開拓支援
- 新商品等開発（企画・パッケージ等）

小さなビジネス・雇用の創出

- インターネット通販・システム構築
- 小さなビジネスの発掘・育成支援
- 後継者育成支援

地産地消活動

- 地域各施設への地域食材活用拡大
- 農産物・加工品の生産拡大依頼・支援
- 地域食材・料理の継承活動
- 生産者の顔が見える素材の提供

地域商社として（株）西土佐ふるさと市が目指すもの

- 地域住民の福祉の向上・所得の向上
- 地域の核となる地域商社の展開（地産外商・6次産業化・ブランド創造）
- 働く場の創出（小さなビジネスの発掘・育成）
- 地域外への情報発信・交流人口の拡大

# 地域商社「(株)西土佐ふるさと市」を核とした地域創造事業スキーム

## 外商機能 地域の魅力・観光情報発信機能

- ・サテライトショップ(松山市)開設
- ・松山市での外商活動(年96回)
- ・都市圏での物産展・商談会等への外商活動
- ・クラウドファンディングによるファンづくり
- ・インターネット通販
- ・地域の魅力・観光情報発信
- ・消費者ニーズ等のフィードバック

- サテライトショップ(松山市)
- 物産展・商談会等出店
- インターネット通販
- クラウドファンディング

外商  
情報発信  
フィード  
バック

## 広域連携の拠点機能

- ・R381号沿い、幡多地域の道の駅連携を基軸にした周辺自治体との広域連携
- ・±41°旭川市(道の駅あさひかわ)との連携
- ・幡多広域観光協議会と連携した広域観光拠点機能

## 地域コーディネート機能

- ・栽培計画、集出荷等の生産者支援
- ・食材供給に向けた協力・連携づくり
- ・小さなビジネスの芽出し・育成支援
- ・新商品開発・既存商品の磨き上げ・ブランド化
- ・寄り合い・居場所・学習の場づくり



# 産学官連携スジアオリ自然栽培（養殖）推進事業

事業費 17,229千円

## 1. 地域の背景・概要

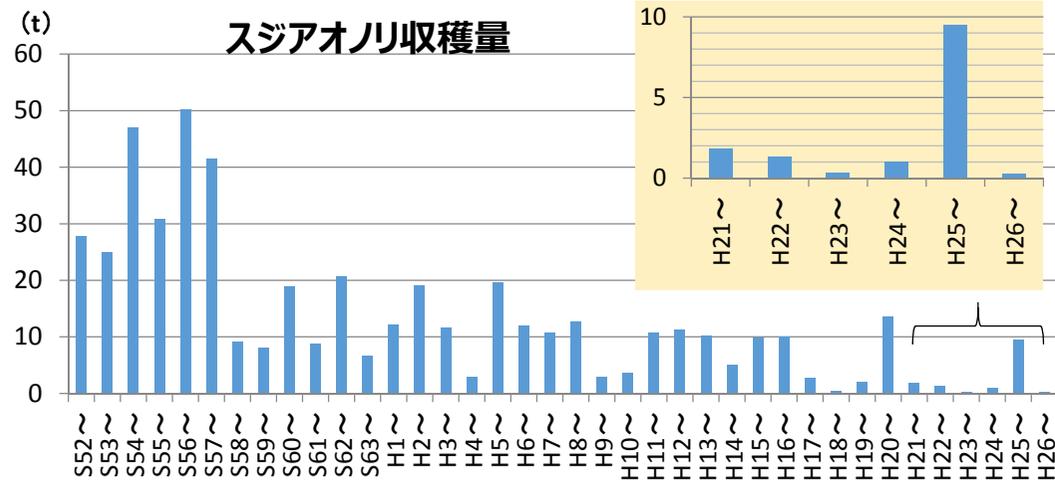
- 四万十川は、高知・愛媛両県にまたがり幹線流路延長196kmに及ぶ大河であり、最後の清流として全国的な知名度を有します。国内の多くの河川において、生物相の単調化や流域生活との関係希薄化が散見されるなか、四万十川は現在でも豊富な生物相が保存され、現役の専業川漁師が存在するなど、今なお市民生活や地域産業とも深く関わる営みが続く、全国でも珍しい河川であります。
- しかしながら、四万十川の代表的な漁獲物であるスジアオリは、以前は豊漁時浜値で1億円規模の一大産業であったが、近年は収穫量が安定せず（豊漁で10t、不漁で0.3t）、年毎の落差が大きい。この結果、安定供給が困難となってしまった四万十川スジアオリは単価が下落し、市内のお土産屋の棚から商品が消えるなど、地域産業の維持が危惧される事態に陥っています。
- 平成20年から四万十市・高知大学連携事業で、スジアオリの河川環境・生態・生育調査と生育試験を行っている。不漁の原因については、これまでの調査により、ノリの生長時期と海水温度下降タイミングのミスマッチが一因であることが解ってきた。また、平成23年から実施している浮かし網によるスジアオリの生育試験により四万十川での浮かし網による栽培（養殖）の可能性が見えてきたところです。

## 2. 取組の概要

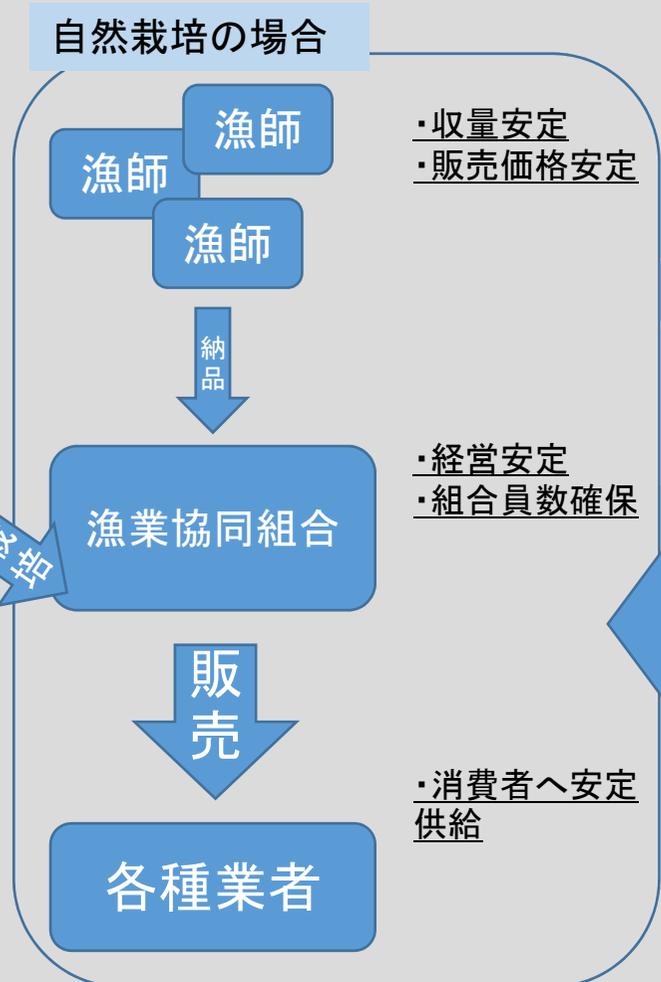
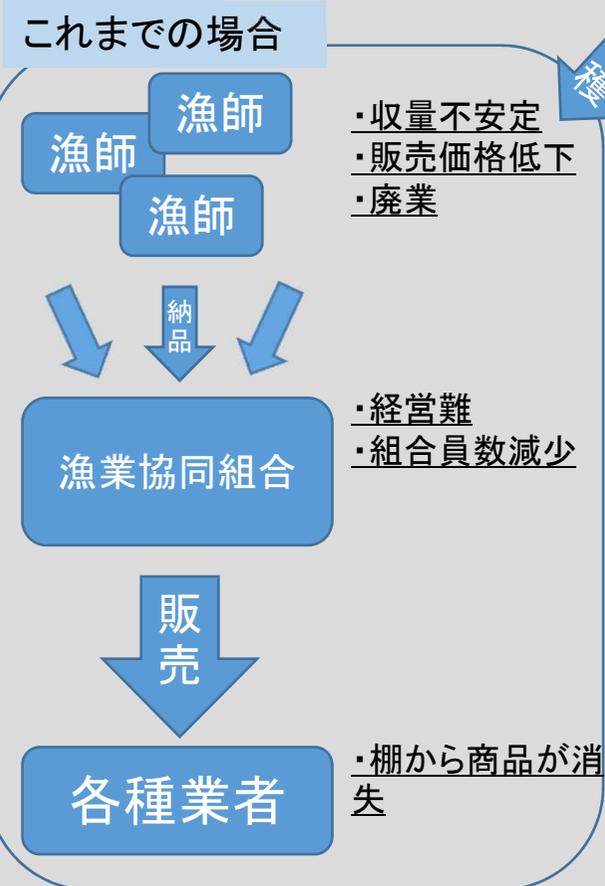
不漁の原因が海水温度に起因するものであるため直接的な改善が難しく、天然収穫量の増加へと繋げていくことは難しいため、安定供給には栽培（養殖）が重要な鍵となっています。

本事業では、四万十川下流漁業協同組合が主体となり、四万十市、高知大学と連携して浮かし網によるスジアオリ自然栽培（養殖）を実践します。これは、養殖網にスジアオリを芽生えさせたものを、水温適正時期に張り込む事でノリの生長時期と海水温度下降タイミングのミスマッチを解消し、四万十川スジアオリの生産量安定化、さらに増産を図るものです。

このことにより、販売単価の上昇も図られ、新たな雇用が生まれるとともに、地域産業としての再生に繋がります。また、加工・販売などの商工業分野にまで大きな波及効果があり、地域の「稼ぐ力」の向上、地域経済の活性化に繋がるものと考えています。



# 5. スキーム図等



四万十市・高知大学連携事業推進会議

スジアオノリの生産量アップの取り組み

- ・河川環境調査
- ・河川自然栽培（養殖）支援

支援

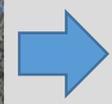
- ・種付け技術支援
- ・網環境の調査
- ・より効率的な栽培の提案
- ・結果分析



浮かし網栽培 設置イメージ図(1セット216kg)



浮かし網栽培 設置イメージ図(23セット5t)



## 四万十・足摺エリア版DMOによる 広域観光推進連携事業

高知県、宿毛市、土佐清水市、四万十市、  
大月町、三原村、黒潮町

ローカルブランディング

交付金：69,000千円

### 事業の背景・概要

- **幡多6市町村・各観光協会、高知県**は、体験交流型観光等の交流人口の拡大を図り、地域経済の発展及び地域振興並びに体験交流観光の向上に寄与することを目的として、**「(一社)幡多広域観光協議会」を設立し、「地域の旅行会社」として、広域で連携した観光誘客を推進**している。
- (一社)幡多広域観光協議会は、新たに**観光庁が導入する日本版DMO候補法人の登録を予定**している。四万十・足摺エリアのDMOとしてその役割を担っていくためには、**データ等の収集・分析によるマーケティングや戦略策定に基づいた運営**をしていくとともに、**安定的な運営資金を確保**や**様々な関係者との連携**が必要となる。
- DMO化による加速化事業としては、以下のとおり
  - ① (一社)幡多広域観光協議会がDMOとなるため、**継続的なデータ収集・分析**のほか、自主企画体験商品の造成や体験商品販売ルート拡大により**収益体制を強化**
  - ② DMOとして**様々な関係者との連携する事業を実施**することで、**地域一体となった観光地域づくり**を推進
  - ③ 教育旅行・一般旅行・スポーツツーリズム・国際観光の誘客推進策として、**旅行会社や個人客に対するプロモーション・情報発信**を強化していくことで、幡多地域を**体験型観光地としてのブランド化**を推進

### 重要業績評価指標 (KPI)

四万十・足摺エリア(幡多地域) への誘客 (H27~31年)

- ・一般観光客 53,750人増
- ・スポーツ客 10,000人増
- ・外国人観光客 13,300人泊

### 先駆性に係る取組 (官民協働、地域間連携、政策間連携)

#### 【官民協働】

- (一社)幡多広域観光協議会は、四万十・足摺エリアの地域の宿泊施設、交通事業者、商工事業者等のほか、田舎暮らし体験家庭など地域住民を含めた**幅広い意見を事業計画に反映し、連携して取り組むしくみを構築**し、事業を実施している。**今回の事業では、宿泊施設、体験事業者、飲食店、交通事業者と連携した新たな事業を展開**する。

#### 【地域間連携】

- 幡多地域は、**他の地域に先駆け、広域による観光施策を推進**しており、それぞれの市町村の強みの観光資源である「点」を「線」でつなぎ、「面」として**幡多地域の全面で売り込むよう6市町村がスクラムを組み、観光振興に取り組んでいる**。

#### 【政策間連携】

- 体験交流型観光等の推進では、観光に携わる人々の「**人材育成**」分野や交流人口の拡大・観光に関わる新たな生業化による「**移住・定住**」分野、農林水産業との連携による体験商品の開発や農家・漁家民泊の拡充といった「**農林水産**」分野などの政策間で**横断的・一体的に連携し取り組んでいる**。

### 今後の展開

- **自主企画体験型旅行商品の造成**や**旅行商品販売ルート**の拡大により、独自の収益事業による**収益体制強化**に着手
- 当面、組織や事業の運営費は行政支援が中心だが、**独自の収益事業を強化し、継続的に行うことにより安定的な運営資金を確保**し、将来的には、**一定の行政支援を受けつつも自律的・継続的な運営**を目指す。

# 四万十・足摺エリア版DMOによる 広域観光推進連携事業

高知県、宿毛市、土佐清水市、四万十市、大月町、  
三原村、黒潮町／（一社）幡多広域観光協議会

DMO

## 事業の背景・概要

- 高知県幡多地域は、最後の清流「四万十川」や「足摺岬」に代表される足摺宇和海国立公園を有する観光地として、首都圏や関西圏等からの来訪者をはじめ、近年ではインバウンド客も多く、本県を訪れる観光客の約1/4を占める人気の高い地域
- 高知県・幡多6市町村・各観光協会は、体験交流型観光等の交流人口の拡大を図り、地域経済の発展及び地域振興並びに体験交流観光の向上に寄与することを目的として、「一般社団法人 幡多広域観光協議会」を設立
- 高知県・幡多6市町村では、同協議会をDMOとして、地域一体の魅力的な観光地域づくりを行うとともに、広域での観光誘客を推進

## 取組の概要

### 【DMOとして必要となる組織の機能・収益体制の強化】

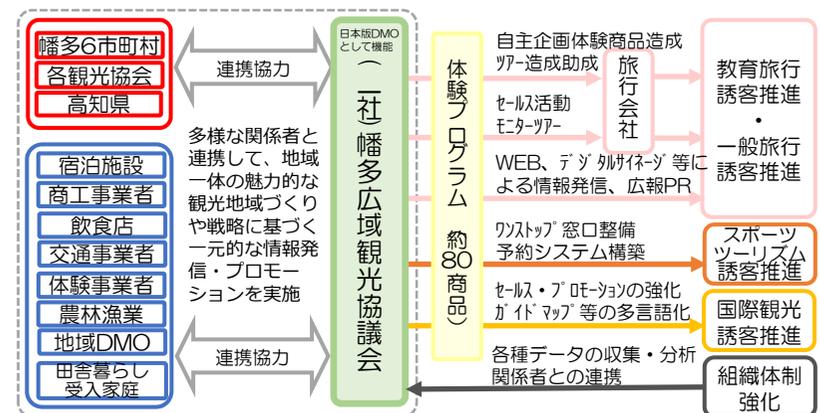
- 継続的な各種データ等の収集・分析
- 自主企画旅行商品の造成
- スポーツツーリズムワンストップ窓口整備のための施設予約管理システムの構築
- DMOとして加速化事業を実施するための事務局体制整備

### 【DMOとしての多様な関係者との連携】

- 宿泊施設と連携した「はた旅体験商品」の販売のしくみ構築
- 体験事業者と連携した「はた旅体験商品」の認知度向上
- 幡多地域の「旬」の食情報を活用した周遊促進・リピーター対策
- 交通事業者と連携した誘客対策

### 【DMOとしてのプロモーション、情報発信の加速化】

- 「はた旅体験商品」を含む四季折々の旅行会社商品の定番化
- インターネット広告、デジタルサイネージ、イメージキャラクターの活用など、広告・広報による情報発信
- 体験商品・幡多地域の見どころ紹介動画の制作
- セールス用ツールの見直し



## 今後の自立に向けた道筋

- ◆活動初期：観光地のブランドづくり、WEB等を活用した情報発信・プロモーション、データ等を活用した戦略策定などを実施
- ◆2～4年目：DMOとしての継続的なデータ収集・分析に基づく運営や安定的な運営資金の確保  
地域の宿泊施設、商工事業者、飲食店、交通事業者等と多様な関係者と連携し、地域一体となった魅力的な観光地域づくり  
体験型観光地としてのブランド化を図るためのプロモーション・情報発信の強化  
体験型旅行商品の企画・造成・販売のしくみの拡大やワンストップ窓口の体制を整備
- ◆5年目以降：将来的には、一定の行政支援を受けつつも、安定的な財源確保による自律的・継続的な運営を目指す

# (一社) 幡多広域観光協議会のDMOとしての役割と今後の取組

## DMOとしての役割

- ①DMOを中心として観光地域づくりを行うことについての多様な関係者の合意形成
- ②データの継続的な収集、戦略の策定、PDCAサイクルの確立
- ③関係者が実施する観光関連事業と戦略の調整・仕組みづくり、プロモーション



観光地域づくりの一主体として実施する  
個別事業  
(着地型旅行商品の販売、ランドオペレーター)

(一社) 幡多広域観光協議会を中心に地域一体の魅力的な観光地域づくりを進めるため、  
組織体制強化や関係者との連携、誘客対策の加速化が必要

## 組織の機能強化・収益体制強化

- ・継続的な各種データ等の収集・分析 → 観光消費額、延べ宿泊者数、満足度、リピーター率等に関する観光動態調査を実施
- ・安定的な運営資金の確保 → 幡多広域観光協議会が主催する自主企画旅行商品の造成  
(例…自然体験・農林業体験プログラム用資機材整備、レンタサイクル機材整備など)  
旅行商品販売ルートの拡大  
(宿泊施設での販売、体験予約WEBサイトでのPR、季節ごとの旅行商品としての定番化)

## 多様な関係者との連携



## プロモーション・情報発信

- ・「はた旅体験商品」を含む四季折々の旅行会社商品の定番化



- ・インターネット広告、デジタルサイネージ、イメージキャラクターの活用など、広告・広報による情報発信



- ・体験商品・幡多地域の紹介動画制作



- ・セールス用ツールの整備

